

<2021年度学園教育重点化資金によるSDGs 腐葉土づくりについて>

日本女子大学附属豊明幼稚園

2021年度学園教育重点化資金により、幼稚園ではSDGsの取り組みとして腐葉土づくりを行った。園庭の自然環境に興味をもつことから始まり、SDGsの目的も含めて子ども達と共に考え、櫻の葉や西生田農場のミミズ等も活用した。引き続き取り組み、畑の土に腐葉土を混ぜて野菜づくりを行う予定である。

1. 園庭の木々や生き物等の自然環境に触れ、興味をもつ

(植物) 種類によって葉の大きさや形、感触の違いがあること、葉の色が変わる木と変わらない木があること等に気付いたり、色が変わっていく様子に興味をもったりしていた。また、ジュンベリーのジャムや梅ジュースをつくったり、柿やザクロ等を食べたり、園庭の木々に関心をもつ子どもが増えていった。



(生き物) 以前から園庭の生き物に興味が高かった子ども達。バッタやカマキリ、コオロギ等の虫探しに夢中になり、捕まえた生き物を飼育していく中で様々な気づきがあった。

今年度は特にトカゲやヤモリ、土の中の生き物(ミミズ、ダンゴムシ、カブトムシの幼虫等)への興味が高まった。事柄や疑問に思ったこと、不思議に感じたことを主体的に調べたり、考えをめぐらせて友だちと意見を出し合ったり、試行錯誤しながら実際に試したりしていた。遊びの中で子ども達が「知る喜び」を味わうことで、「意欲的に物事に取り組む姿勢」「探究心」「学ぼうとする力」が育まれている。



(水) 堆肥枠の発酵を促す為にかけていたビニールシートの上に雨水が溜まり、冬の時期には氷が張ることもあった。氷に触れる等、季節を感じる機会にもなった。



2. 落ち葉を使った堆肥づくり

園庭や遠足に行った西生田農場でお芋掘りの際に出てきたミミズを事前に集めた。作業手順は①落ち葉に水をかけ、踏み固める、②土や米ぬか等を混ぜ、堆肥枠の中に入れる、③ミミズを堆肥枠内に入れるであり、①～③の作業を層になるように積み重ねていった。ミミズが土の中に入っていく様子に子ども達は特に興味津々。自分達が日々世話をしている畑にいかすことができる土、野菜の栄養になる土をつくろうと取り組んでいた。

(『12. つくる責任つかう責任』『15. 陸の豊かさを守ろう』)

〔落ち葉やミミズを集める〕



〔堆肥づくり〕

①落ち葉に水をかけ、踏み固める



➔ ②土や米ぬか等を混ぜ、堆肥枠の中に入れる



③園庭や西生田で見つけたミミズを堆肥枠内に入れる



➔ ④ ①～③の作業を繰り返す

(堆肥枠内の様子を覗き込む子ども達)



⑤堆肥枠が一杯になった為、ビニールシートで蓋をする



3. 繰り返し作業・年中児（次年度）への引き継ぎ

繰り返し繰り返し作業を行う中で、徐々に堆肥化が進み、落ち葉の状態や土の色、匂いの変化に子ども達自身が気付く様子がみられた。この頃には、電子顕微鏡やルーペ等の扱いにも慣れ、自分達で自主的に観察を進めていく子どももいた。



堆肥化は現在進行中の為、年中児に引き継ぎを行った。継続していくことで、畑やプランターに利用し、野菜や花の栽培にいかす→新鮮な農作物の収穫体験→食べる→食べられない部分や食べ残しを堆肥枠に入れる→堆肥づくり・・・という自給循環システム、落ち葉のリサイクルを子ども達が実体験できるようにしていきたいと考えている。

⑥一定期間経過後、繰り返し作業を行う

➔ ⑦ルーペ等を使って観察する

➔



⑧堆肥の状態に応じて、ミミズや米ぬか等を追加する（年中組と共に行う）



4. 資源を大切にすることの気持ち、リサイクル精神の高まり

以前から実践していた各保育室の分別ゴミ箱に対する意識の変化もあった。色紙等、自分が使った教材を「まだ使えるか、使えないか」で捨てるかどうかを判断し、できる限り使おうとしたり、分別が違うゴミ箱に捨てるようとしている友だちに声を掛け、正しい分別を促したり、ものを大切にしようとする気持ちやリサイクル精神が高まっていった。

（『12. つくる責任つかう責任』『13. 気候変動に具体的な対策を』）

<研究成果>

今回の取り組みを通して、植物や生き物に触れる機会が増え、「自然環境に親しみを感じて大切に思う気持ち」が育まれたり、ゴミを出さないように「自分達ができることから取り組んでいく姿勢」が芽生えていった。友だちの姿に刺激を受けて、興味の幅も広がり、「好奇心」をもって自然環境にかかわるきっかけにもなった。自然の中で様々な種類の生き物がかわり合いながら生きていることを感じ、興味をもったことに夢中になって取り組むことで、「探求心」「集中力」「学ぼうとする力」等も高まりをみせた。